

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	12-084	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
<p>The association between neighborhood disorder, social cohesion and hazardous alcohol use: a national multilevel study.</p> <p>地域不和や社会的絆と危険なアルコール摂取との関連</p>		
執筆者		
Kuipers MA, van Poppel MN, van den Brink W, Wingen M, Kunst AE.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2012 Nov 1;126(1-2):27-34		
キーワード		
アルコール消費、地域社会、地域不和、社会的な絆、オランダ		
要 旨		
<p>目的： アルコール消費と地域不和や社会的な絆との関連に関するエビデンスは限られている。本研究ではこれらの関連について詳細に調査する。</p> <p>方法： オランダの2006年から2009年にかけての全国健康調査(POLS)で得られた1,546地域、14,258名の個人データを対象とした。地域不和や社会的な絆に関するデータは2006年のオランダ住宅研究(WoON)をもとにした。危険な飲酒行為は女性で週14飲酒以上、週21飲酒以上、週28飲酒以上で分類し、男性では週21飲酒以上、週28飲酒以上、週35飲酒以上で分類した。年齢、性別、民族、婚姻、学歴、収入、財産、地域の主要な宗教、人口密度を調整した多重回帰ロジスティックモデルを用いた。精神的苦痛(うつ病や不安)の潜在的な介在とメンタル健康テスト(MHI-5 score)を検証した。</p> <p>結果： 女性では地域不和の高い地域では危険なアルコール摂取が関連する(OR cut-off 3: 3.72 [2.03-6.83])が、男性では関連しなかった(OR cut-off 3: 1.08 [0.72-1.62])。精神的苦痛による介在は確認されず、ほどほどの介在がメンタル健康テスト(MHI-5 score)で確認された。社会的絆は危険なアルコール摂取とは線形な関連が確認できなかったが、男性において並みの社会的絆と極度の危険なアルコール摂取との関連が確認された(OR cut-off 1: 1.29 [1.08-1.53])。プロテスタントが多い地域ではこの関連が弱い結果を得た。</p> <p>結論： 危険なアルコール摂取は社会的な絆よりもむしろ地域不和との間に一貫した強い関連があるようである。このことから社会環境の負の側面の方が社交性や支援といった社会環境の正の側面よりも危険なアルコール摂取に対して大きな影響を与えることが示唆された。</p>		